

# 平成31年度「特色ある学校づくり対策事業」実践事例

- 【学校名】 佐世保市立広田小学校  
【所在地】 佐世保市広田1丁目25番4号  
【校長】 沖島 宏幸  
【学校規模】 36学級 児童数1023名 (R1.5.1)  
【学校教育目標】

主体的に考え 正しく判断して行動できる  
心豊かでたくましい子どもの育成



【小学校舎（1～5年）】



【中学校舎（6年）】

1 委託期間 平成31年4月1日～令和2年3月31日

2 目的

## (1) 小中一貫型教育の推進

広田小学校、広田中学校の小中一貫型教育3年目にあたり、昨年度の実践の成果と課題をもとに実践を行い、中学校教諭による乗り入れ授業や中学生との交流活動を重視し、円滑に中学校生活に移行することができる連携体制をつくる。

また、5年保護者及び地域への説明会を開催し実践内容を報告したり、学校だよりや小中連携だよりを定期的に発行したりして保護者や地域への周知を図る。

## (2) 地域人材を生かした体験活動による、心豊かな児童の育成

1000名を超える大規模校ではあるが、地域の「人・もの」に恵まれ、様々な体験活動を実施することができる。この地域教材を、生活科や総合的な学習の時間の学習に生かし、学年の発達段階に応じた体験活動と地域の方々との交流活動を仕組み、教科等の学習と関連付けながら総合的な学力を身に付けさせる。また、本校に定着している図書ボランティア「よむよむ」の活動を中学校舎の6年生にまで広げることにより、読書への興味・関心を高めるとともに豊かな感性をもった児童を育成する。

## (3) 課題を明確にした学力向上の推進・新学習指導要領に即した授業実践

全国学力学習状況調査（6学年）、県・市の学力テスト（5・4学年）に加え、2・3学年も学力調査を実施する。結果を分析し、本校児童の課題を明確にし、校内研修を通じて指導法の研究を行ったり学習教材の整備をしたりする。また、活用する力を育成したり、そのための基礎となる「基本的な学力」を定着させたりするため、課題に応じたプリント集等を整備する。さらに、校内研修において授業の中に以下の2点を盛り込み、「かいて伝え合い、学びを深め合う児童の育成」を目指した授業研究の実践に取り組む。

ア 毎時間の授業について「めあて」と「まとめ」を明確にした授業実践

イ 自分の考えを絵や図、言葉でかき説明する活動、自他の考えを伝え合う活動を仕組む。

## (4) 特別支援教育の環境整備

特別支援学級における指導の際に、特性に応じた知育玩具を教材・教具として整備することにより、自立活動の学習の時間や情緒の安定を図るための支援教材として活用する。通常学級に在籍する配慮を要する児童の個別学習にも活用する。

### 3 実践内容

#### (1) 小中一貫型教育の推進

【6年生が中学生と一緒に取り組んだ学校行事等】

※始業式・終業式は小学校で実施 ※前期始業式のあと 「出発式」(小学校舎) 「歓迎式」(中学校舎) ※体育大会 ※文化発表会の合唱コンクールに参加 ※マラソン大会(距離を短くして 6年生も参加) ※駅伝大会(6年選抜チームで参加)	<b>期日</b>	<b>集会・行事等</b>
	4月	6年生歓迎式、部活動紹介
	6月	いのちを見つめる日、6.29平和集会
	7月	前期前半終了 全校集会
	8月	8.9 平和集会
	9月	前期後半開始 全校集会、体育大会
	10月	文化発表会
12月	人権集会、マラソン・駅伝大会	
		前期始業式・終業式、後期始業式、卒業証書授与式は小学校で実施

【乗り入れ授業・出前授業の実践】

- 乗り入れ授業：外国語活動・音楽・書写の3教科において、中学校教諭が専科を担当
- 出前授業：総合的な学習や体育等の教科において、TTとして中学校教諭が適宜指導を行う。

【6年生と1～5年生との交流活動】

- 歓迎遠足：小学校で参加
- クラブ活動：(年間10時間程度)は、小学校で実施。
- 縦割班活動：1～5学年との交流の場を工夫

【小中一貫型教育についての周知】

- 説明会の開催
  - ・2月17日(月)：中学校舎の生活について、6年生が5年生に説明した。
  - ・2月19日(金)：小中一貫型教育の進捗状況に関する5年保護者・地域への説明会を開催
- 「小中連携だより」の定期的な発行

#### (2) 地域人材を生かした体験活動による、心豊かな児童の育成

～豊富な地域教材「人・もの」を生かした様々な体験活動を実施する。～

【第1学年：「お正月の昔遊び」(福笑い・コマ回し・羽子板・お手玉・けん玉)(生活科：4月・1月～2月)】

1年生を含めた現代の児童は、パソコンやスマートフォンなどが身近にあり、ゲーム中心の生活で、人と関わる遊びをすることが少なくなった。アナログ的な遊びに触れ、直接人と関わる遊びの面白さを感じることができた。また、昨年度から「保幼小連携スタートカリキュラム」を開始。1年生の入門期にあたる4月に、生活科の学習を軸に、小学校での学びや生活習慣の基礎を身に付けさせる時間を設定した。

入学前に、それぞれの園を訪問し園児の実態に合わせたカリキュラムを作成することで、円滑に小学校生活をスタートできるようになった。

【第2学年：サツマイモの栽培(生活科：5月～10月)：町探検(生活科：7月)】

J A西海農協の協力により、学校の花壇でサツマイモのツル差しを行い、秋には芋を収穫し、保護者の協力を得て、収穫した芋をふかし、食する体験も行った。自分たちの手で育てた芋を食することで、野菜等の栽培へ関心をもつ子が増え、芋以外に育てた野菜へ水やりを続ける児童の姿が見られた。

町探検の学習では、保護者の見守り協力を得て、自分たちの行ってみたい地域について調べる計画を立て実践する探究活動を仕組むことができた。地域の方々やお世話してくださった保護者とのふれあいの場にもなり、地域に親しみを深めることができた。

【第3学年：昔遊び交流会(総合的な学習：6月・11月)】

本年度もGTとして地域のお年寄りをお招きして、昔遊びを通した交流会を実施した。けん玉、あやとり、おはじき、羽子板お手玉などの昔遊びをお年寄りの方々に教えていただいたり、共に遊んだりすることで、子どもたちは日本の伝統文化を体験し、お年寄りから多くのことを学ぶことができた。またその技の巧みさに、尊敬の念を感じることができた。

地域に伝わる伝統行事について学ぶ活動では、地域の様子に詳しい方をGTとして招待し、わかりやすく話をしていただいた。子どもたちは熱心に話に聴き入り、自分たちの住む広田の町により愛着を感じることができた。その活動から、広田の歴史にも興味を広げ、住吉神社や古墳跡地、広田城跡などの地域の史跡を調べるといった活動につなげることができた。

#### 【第4学年：花の栽培活動（総合的な学習：10～3月）】

11月に、ボランティア「花づくり協力隊」の協力を得て、卒業式・入学式へ向けた花の栽培活動に取り組んだ。地域のお年寄りとの交流を楽しむとともに、草取りや水やり活動を通して、植物を大切に育てようとする心が育った。本年度は参加される地域の方が少なかった。活動の内容を検討しボランティアの皆さんと児童とのよりよい交流の場になるようにしていく。

#### 【第5学年：「命と食について考えよう」大豆の栽培・味噌づくり（総合的な学習：4～11月）】

J A西海農協の協力で、学校の敷地内で大豆の栽培を行い、味噌をつくる活動を行った。天候の関係で、収穫できた量は少なかったものの、水やりや雑草抜きなどの常時活動を通して、植物栽培の難しさを味わい農家の苦労を実感することができた。また、大豆で味噌づくりをする体験を通し、加工するという伝統の知恵を学ぶことができた。本単元の学習を通して、人間の命は動植物の命によって支えられていること、日本の食料自給率が低く外国に頼っていることに気付くことができた。

学習のまとめとして、授業参観で学習したことを発表した。書物やインターネットから必要な資料を選び活用する力や、プレゼンテーションを使ってわかりやすくまとめる力が付いた。保護者にアンケートを実施し情報を収集するなど意欲的に探究活動に取り組むグループも見られた。

#### 【第6学年：「日本や世界の文化を体験しよう」（総合的な学習：6～11月）】

本校は、長崎国際大学が近隣にあることを生かし、例年大学の施設で児童が日本文化等に関する体験学習を行ったり、海外からの留学生を招待して交流学習を実施したりしている。本交流学習も定着し、外国語活動の時間に学んだ英会話を生かして留学生に話しかけようとする児童も見られるようになり、国際理解に関する意識が深まってきている。昨年度に続き、小中一貫型教育を生かし中学校教諭による「出前授業」を行い、華道体験を実施することができた。

#### 【全学年：読書活動の推進（通年）】

火曜朝の時間帯は「朝読書」の時間とし、読書活動に取り組んだ。本年度も、読み語りボランティアグループ「よむよむ」の協力を得て、学年毎に絵本の読み語りを行った。6年生校舎での活動も定着し、全学年の児童が、読み語りの時間をとても楽しみにしている。

### **（3）課題を明確にした学力向上の推進・新学習指導要領に即した授業実践**

#### ① 既習の学習内容の定着度の確かめ、基礎・基本の徹底【国語・算数】

4～6学年は、国・県・市が実施する学力調査を実施。2・3学年については、学力調査を別途実施した。それぞれの結果を分析し、基本的な学習内容の定着に向けた対策を立てた。各教科課題別のプリント集を整備することで、個に応じた学習教材（ワークシートや課題プリント）を整え、朝のチャレンジタイム（月・木曜日朝8：25～8：40）や家庭学習の課題として活用することができた。

② 校内研修において「かいて伝え合い、学びを深め合う児童の育成」を目指した授業研究の実践に取り組んだ。初任者をはじめとする若手教員が多く、意欲的に公開授業に取り組み授業研究会が活性化されている。学年主任を中心に、同学年間で主体的に話し合い、授業の中に以下の2点を盛り込み、授業研究を行い、成果を上げることができた。

ア 毎時間の授業について「めあて」と「まとめ」を明確にした授業実践

イ 自分の考えを絵や図、言葉でかき説明する活動、自他の考えを伝え合う活動を仕組む。

## 4 成 果

### (1) 小中一貫型教育の推進

#### ① 中1ギャップの解消

小中一貫型教育3年目を迎え、一期生が中学校2年生となった。意識調査からも6年生及び中学生にも、互いに交流することで成長できる喜びを感じていることがわかる。小中の教職員も、連携して児童・生徒理解に応じることができており、小学校から中学校への継続した見守りができている。

#### ② 6年生の学習面における効果

中学校教職員の専門性を生かした授業（乗り入れ授業）が定着し、児童の学習意欲及び技能の向上と中学校へのつながりができている。【外国語活動・音楽・書写】また、「出前授業」という形で、他教科の学習においても適宜TTとして中学校教諭の指導を受けることで教師自身のスキルアップを図ることができた。さらに、中学校との連携により、時計を見て自発的に行動することや始業前の黙想で集中して学習を始める習慣、中学生に準じた「自学ノート」の活用による家庭学習の習慣が定着した。

#### ③ リーダー性の育成

6年は歓迎遠足、クラブ活動、1～5年との交流活動など小学校舎での活動も継続して取り組ませることでリーダー性を発揮させる場面を設定した。中学生と接する機会が増え、集団行動の仕方などを身に付け、小学校舎での活動において下級生の手本となっている。

5年は年度始めから小学校舎の最高学年として、1年生のお世話・運動会の準備等に取り組んだ。正門前で「あいさつ運動」、1年生のお世話や委員会活動での4年生への指導などに1年間を通して取り組み、小学校舎でのリーダーとしての自覚が育った。

### (2) 地域人材を生かした体験活動による、心豊かな児童の育成

1～3学年では、地域のお年寄りや幼稚園・保育園児とのふれあい、野菜栽培を通して、自然に触れる体験や昔の生活体験などにつなげることができた。

4～6学年では、環境教育、食育、国際理解と、地域の環境や人材を生かして、テーマを絞った教育活動を展開することができた。4年生は、花の苗植え活動を通して、地域のお年寄りとの交流を深めることができた。5年生は、大豆栽培を起点に、味噌づくり体験につなげ、社会科の学習と関連付けて食料自給率の問題について考えたり、食の安全性について考えたりする活動に広げることができた。6年生は、国際大学との交流を通して、日本文化について学びを深めることができた。

図書ボランティア「よむよむ」の読み語りにより、図書室の貸し出し冊数も増えてきた。高学年になるにつれて、少しずつ文章量の多い書物を選ぶ児童が見られるようになった。

### (3) 課題を明確にした学力向上の推進・新学習指導要領に即した授業実践

年度始めの学力テストは、2・3年生も実施することで、国語・算数において、各学年ごとの課題、全校的な課題を把握することができた。昨年度よりプリント資料集を整備してきたことで、個に応じた練習問題を与えることができた。また、苦手な領域に絞った反復学習にも取り組むことができた。

本校の児童に、自分の考えを筋道立てて説明する力を付けるために、校内研修では思考の過程を文章や絵・図などでかいて説明する場面を授業の中に設定した。さらに、小グループで互いに考えを伝え合う「あいあいタイム」を設定することは、普段の授業の中でも定着してきた。

### (4) 特別支援教育の環境整備

知育玩具等の教具が揃ったことで、特別支援学級の授業に活用するだけでなく、通常学級に在籍する配慮を要する児童の個別指導にも活用することで、遊びを通して学びに向かう態度が育ってきた。

## 5 今後の課題

#### ① 小中一貫型教育のさらなる充実に向けて

- 6年生と、小学校舎（1～5年）の縦割活動・交流活動の充実を図る。
- 指導方法や評価について、小中教職員間の研修を深める。
- 9か年を通した、児童・生徒の基本的な学習習慣・生活習慣の確立を図る。
- 地域・保護者への継続した経過説明を実施する。

#### ② 地域教材（人・もの）のさらなる効果的な活用に向けて

- 中学校と連携し、地域人材の共有を図り、9か年を通して「夢・憧れ」を抱かせる本物の体験活動

#### ③ 学力向上に向けて

- 各種学力調査の結果をもとに、全校的課題や学年の課題を絞り、課題克服に向けた系統立てた指導
- 家庭と連携して、家庭学習の習慣化